

令和7年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：27505

学校名：手稲山口小学校

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果			分析
体力・運動能力 ＜男子＞	○全国平均の記録と同程度もしくは上回った種目 握力 長座体前屈 立ち幅跳び 反復横跳び	○全国平均の記録を下回った種目 上体起こし 20m シャトルラン 50m 走 ソフトボール投げ	握力、長座体前屈、立ち幅跳び、反復横跳びは、全国平均または同等の結果であったが、その他は下回った。運動が好き・楽しいの割合が前年度に比べ減っていることから、運動能力にも反映したと考える。
体力・運動能力 ＜女子＞	○全国平均の記録と同程度もしくは上回った種目 握力 反復横跳び	○全国平均の記録を下回った種目 上体起こし 長座体前屈 20m シャトルラン 50m 走 立ち幅跳び ソフトボール投げ	握力、反復横跳びは全国平均より上回ったが、それ以外は下回った。まずは、運動を好きになるような取り組みを行い、全体的な運動能力を向上させていくことが求められる。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	『運動やスポーツをすることが好き・やや好き』の回答割合 男子 85.7% (-4.3%) 女子 92.1% (-0.9%) ※()内は昨年度比	『進んで学習に参加』の回答割合は、男子 62.5% (63.2%) 女子 44% (54.7) 『目標を意識した学習で「できたり、わかったり」すること』男子 29.2% (34.9%) 女子 18.4% (26.7) ※()内は全国値	男子の意識は全国・札幌市とほぼ同等だが、女子は進んで学習に参加すること、目標を意識した学習で「できたり、わかったり」すること、友達と助け合ったり、教え合ったりする学習で「できたり、わかったり」することがかなり低いので、授業改革、意識改革が必要と考える。
三つの取組			
①体育・保健体育等の授業の充実			②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組
③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組			
具体的な取組	・子どもが運動の楽しさに触れられる心と体の準備運動・活動 体育のスタートにダンスを取り入れた準備体操や、主運動での問題解決につながる準備活動を取り入れ、より技能が高まるような学習に取り組む。 ・「わかる」と「できる」をつなげ、もっと取り組みたいを生む 子どもの学びを可視化することで、必要な動きを分かるようにし、できる喜びにつなげる。できることを振り返ることで、必要な動きに気付ける(分かる)ようにする。(クロムブックの活用) ・男女共に走力、柔軟性を高める。 準備運動でスキップや、ストレッチなどを導入していく。	・「なわの日」 毎月7と8のつく日1回ずつ縄跳びに取り組む。7のつく日は、個人跳び(30秒での跳んだ回数をカウント・3分間持久跳び)、8のつく日は、ペア学年での通り抜け、またはペア学年での長縄に取り組む。 ・「やまっ子アクティブタイム」 毎月3のつく日は、全校でダンスに取り組む日、または、個人スポーツ(キックターゲット、大谷グローブキャッチボール、稲葉(いなバ)トンリレー、ティーバッティング、鉄棒、幅跳び、一輪車、ケンパ、登り棒など)に取り組む日として設定する。 ・なわとび、ボルダリングコーナーの常設と検定	・食に関する指導・学習の充実 ○学校給食を活用した地産地消や家庭と連携した食育・総合(3年生)の推進 ○フードリサイクルによる食と環境を結び付けた食育の推進 ・心と体と命の学習・保健学習の充実 ○年間2回の保健指導や保健学習(3年生以上)の充実により、命を大切にし、健康に気を付けようとする気持ちを高める。 ・自分の体を知る学習の充実 ○年間3回(合計1コマ分)の学習を通して、自分の体の健康づくりを知る。 ・夏季休業・冬季休業中の縄跳び活動 ○「手稲山登山縄跳びカード」を配付し、自主的、継続的に運動する意識を高める。
家庭・地域との連携・協働	・中学校のパートナー校との連携 中学校で行われている「ダンス」の授業を高学年の児童が参観し、自分たちの表現活動につなげる。 ・外部講師の要請 放課後本校で行われているダンス少年団のインストラクターや、日本ジャンプロープ連合の講師をダンスの授業や体づくり運動(なわとび)でゲストティーチャーとして迎え、プロの技術に触れる様な働きかけを前年度のように継続していく。		

